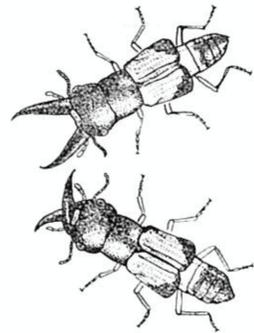


COLEOPTERISTS' NEWS

甲虫ニュース

No. 40

(Jan. 1978)



日本産ホソガムシ科概説

佐藤正孝

概説 この科は、ホソガムシ属だけで構成されており、かつてガムシ科の1亜科とされていた。しかし、BOVING & CRAIGHEAD (1931) が幼虫の形態に基づいて独立の科として取扱って以後、JEANNEL et PAULIAN (1944), CROWSON (1954) などほとんどの研究者が科と認めてきている。なお、古くには、THOMSON (1867) が科として扱っていたこともある。

この仲間は、ニュージーランドを除く全世界に分布し、約70種が知られているが、日本からは、僅か3種の記録しかない。

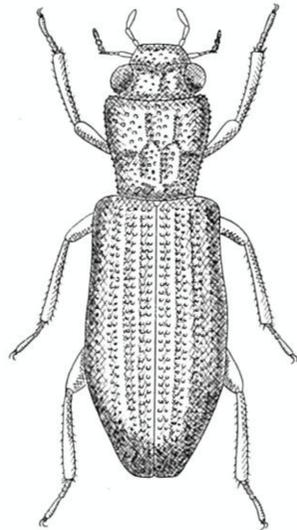
最初の日本産種は、SHARP (1873) が *H. japonicus* を記載したのに始まるが、この種は日本各地に普通で、神谷 (1939) が図説したこともあり、その他にもよく図説されている。つづいて、SHARP (1884) は、第2番目の種として *H. aequalis* を記載したが、その後まったく記録されることなく今日に至っている。それ以来約80年この科の日本産種についての知見が加えられないまま近年に至り、BALFOUR-BROWNE & M. SATO (1962) は *H. chubu* を記載するとともに、日本産種のまとめを行なった。その中でAnnam (現在のVietnam) から知られていた *H. annamita* を *H. japonicus* の synonym とした。

外部形態 体長3mm内外の小型種。体は細長く、背面は金属光沢を帯びる。体下面は光沢を欠き、絨毛状となる。頭部は両眼間やや前方にY字状の条溝を具える。眼は大きく、側方に突出している。触角は7節で、先端3節は被毛しており球桿部を形成し、第4節は盃状となる。球桿部は基部4節を合わせたよりやや短い。小腿枝は4節で、触角とほぼ同じ長さ。

第1節は非常に短く、第4節は最も長い。第2、3節を合わせたより短い。前胸背はほぼ四角形で、後方に狭まり、背面は粗大点刻を有し、数個の凹陷を具える。小楯板は小さい。上翅は10条の粗大点刻列があり、奇数間室は隆起する。前基節孔は後方が閉じている。各腹節は基部および中央が隆起している。

肢は細く長い。跗節の第1節は非常に短く、第5節は長く、第1～4節を合わせたとほぼ同じ長さとなる。♂交尾器は三片型。

生態および幼生期 小さな昆虫であることから、あまり人目につかず、生態についてはほとんど何も判っていない。水生種でありながら、水中への適応は不十分で、泳ぐことができなく、水中の沈積物につかまって歩行している。成・幼虫ともに、食性は植物質と考えられるが、有機質の多い池や貯水池に多く生息しており、成虫は灯火にも飛来することがある。幼生期に関する報告は、日本ではまったくなく、世界的にも、RICHMOND (1920) の北アメリカでの報告が唯一のものである。そこで、その報文から幼虫図を引用して示し、参考に供しておきたい。幼虫の口器、触角、尾部などは、他のガムシ類に比べかなり特異である点に注目されたい。



第1図 *Hydrochus japonicus*
SHARP ヤマトホソガムシ

分類 ガムシ上科の中での他の科との関係を眺めたり、実際に調べる際の便宜とを考えた上で、科への検索を以下に示しておく。

ガムシ上科の科の検索

- (2) 頭頂にY字形の頭楯縫合線がない。触角の球桿部は5節よりなる。跗節は褥盤を欠き、第5節は第1～4節を合わせたよりも長い。腹部は6節が認められる。♂交尾器に明瞭な基片を

- 欠く…………… Hydraenidae ダルマガムシ科
- 2(1) 頭頂にY字形の頭楯縫合線が認められる。触角の球桿部は3節よりなる。跗節は数本の剛毛をもった褥盤を有し、第5節は第1~4節を合わせたものとはほぼ同じか、または短い。腹部は5節が認められる。♂交尾器は明瞭な基片を具える。
- 3(4) 体は細長く、背面はあまり膨隆しない。複眼は突出する。前胸背板は基部が上翅幅より狭く、背面に不規則な凹陷が認められる。前基節孔の後方は閉じている。触角は7節よりなる。跗節の第5節は第1~4節を合わせたものとはほぼ同じ長さ。各腹節基部および中央部は隆起する…………… Hydrochidae ホソガムシ科
- 4(3) 体は球形ないし楕円形で、背面はよく膨隆する。複眼はあまり突出しない。前胸背板は基部が上翅と同幅か、または狭く、背面は滑沢である。前基節孔の後方は開いている。触角は9節で、まれに7~8節よりなる。跗節の第5節は第1~4節を合わせたよりも短い。各腹節には隆起部がない。
- 5(6) 頭部は前胸背板に隠されて背面から認めにくい。小腮枝は触角より短い。前基節は大きく、前胸腹板を隠す。腹部の第1~2節は癒合する。…………… Georissidae マルドロムシ科
- 6(5) 頭部は背面から容易に認められる。小腮枝は長く、触角より長い。ときに同じ長さ。前基節は小さく、前胸腹板は明瞭に認められる。腹部第1~2節は癒合しない。
- 7(8) 前胸背板は中央より前方でもっとも幅広く、背面に明瞭な5条の縦溝がある。小楯板は小さい。上翅の点刻列は列状で、かなり強く印刻される…………… Helophoridae セスジガムシ科
- 8(7) 前胸背板は基部でもっとも幅広く、背面に縦溝がない。小楯板は比較的大きい。上翅の点刻は列状であるが、微弱なものが多い…………… Hydrophilidae ガムシ科

Genus *Hydrochus* LEACH, 1817 ホソガムシ属
 属の模式種: *Silpha elongata* SCHALLER, 1783
 (ヨーロッパ産)

現在まで、日本産は3種が知られているにすぎない。それぞれよく似ていて外部形態での区別はややむづかしいが、♂交尾器を検査することができれば同定は容易である。外形の特異なことから、古くからよく知られていることもあって、属名に関して synonym はないが、*Hydrochus*, *Hydrochous* など誤った綴りがときに用いられている。

日本産ホソガムシ属の種の検索

- 1(2) 前胸背の凹陷はあまり顕著でない。上翅間

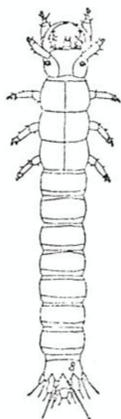
室はすべて、僅かに隆起しているだけである。

下唇基節は強くくぼむ。色彩は金属光沢のある暗褐色…………… *aequalis* SHARP

- 2(1) 前胸背の凹陷は顕著である。上翅の第3, 5, 7, 9間室は明瞭に隆起し、隆条となる場合がある。

3(4) 下唇基節は中央が丸くくぼむ。上翅第3, 5, 7, 9間室は隆条となる。色彩は青銅気味の光沢をもった焦茶色で、頭部は黒色…………… *chubu* BALFOUR-BROWNE et M. SATO

4(3) 下唇基節は中央が僅かにくぼみ、強い点刻を散布する。上翅第3, 7, 9間室は明瞭に隆起し、第5間室は隆条となる。色彩は金属緑色ないし藍色の光沢をもった黒褐色…………… *japonicus* SHARP



第2図 ホソガムシの幼虫
Hydrochus sp.
 (RICHMOND, 1920による)

1. *H. aequalis* SHARP, 1884 ホソガムシ

本種は、京都の“巨椋池”産の♀を模式標本とし、“大阪”産の♂を副模式標本として記載されたが、その後日本はもとより近隣諸地域の何処からも記録がない。かつて、神谷(1939)は前胸背の凹陷には変異があるとして、*H. japonicus* の synonym と思うという見解を示したことがある。筆者は日本産種のまじめに当たって、当時大英博物館の甲虫部に在勤の BALFOUR BROWNE 氏をわずらわし、本種のタイプ標本を調べていただき、標本写真および♂交尾器の図の送付を受け独立の種であることを確かめた。

記載に用いられた標本は、1881年に G. LEWIS 氏が採集されたものであるが、その後まったく採集されないのは残念で、何とかして日本人の手で再発見を期待したいものである。これまでに、原記載以外形態については報告されたことがないので、原記載を訳して示しておきたい。

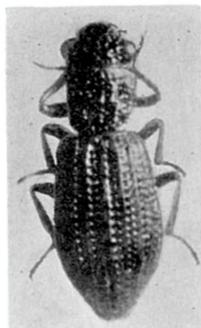
“体背面は金属光沢ある暗褐色、体下面は黒色、触角、下唇枝、脚は黄褐色；前胸背は強く点刻され、不規則で微弱な凹陷を具え、後方に狭まる；翅鞘の条溝は強く、深く点刻され、間室は狭くいずれも概して似ていて等しい。体長3mm。

この小昆虫は、*H. japonicus* に非常に類似であるとはいえ、前胸背の明瞭な凹陷を欠くことによって別の種である。

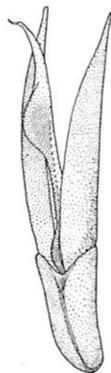
分布：日本(本州)。

2. *H. chubu* BALFOUR-BROWNE et M. SATO, 1962 チュウブホソガムシ

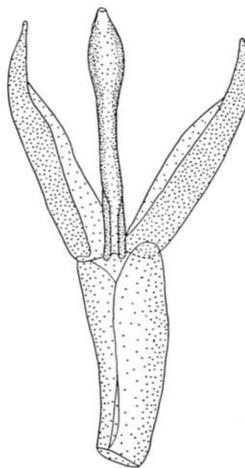
“四日市市尾平山”の溜池および“大阪信太山、道川池”で得られた標本に基づいて、筆者らが記載した種であるが、その後他からはまだ得られていない。都市近郊でこのような種が近年に至るまで未記載のまま見逃されていたことは、日本の水生甲虫はまだまだ調べなければならぬことを如実に物語る



第3図 *Hydrochus chubu* BALFOUR-BROWNE et M. SATO チュウブホソガムシ



第4図 *Hydrochus aequalis* SHARP ホソガムシの♂交尾器



第5図 *Hydrochus chubu* BALFOUR-BROWNE et M. SATO チュウブホソガムシの♂交尾器



第6図 *Hydrochus japonicus* SHARP ヤマトホソガムシの♂交尾器

ていよう。

種名の“chubu”は、中部地方を意味して命名したものである。

体長：2.4~2.5 mm。

分布：日本（本州）。

3. *H. japonicus* SHARP, 1873 ヤマトホソガムシ

日本では、各地の池や貯水池に普通の種であるが、近年かなり個体数が少なくなった。原産地は“長崎”である。Annam から記載された *H. annamita* RÉGIMBART, 1903 は本種の synonym である。

体重：2.6~3.1 mm。

分布：日本（本州，四国，九州），琉球列島，台湾，フィリピン，中国，ヴェトナム，タイ，アッサム。

参考文献 日本産種に直接関係ある文献は僅かであるので、以下参考までに示しておく。

BALFOUR-BROWNE, J. and M. SATO, 1962. On the Japanese species of the genus *Hydrochus* LEACH (Coleoptera, Hydrophilidae), *Nipponius*, 1 (19) : 1-6.

神谷一男, 1939. 日本産水棲甲虫類 [I] 牙虫科 (1), 日本の甲虫, 3 (1) : 26-31.

RÉGIMBART, M., 1903. Contribution à la faune Indo-chinoise, 19^e mémoire, Hydrophilidae, *Ann. Soc. ent. France*, 72: 52-64.

SHARP, D., 1873. The water-beetles of Japan, *Trans. ent. Soc. London*, 1873 : 45-67.

——, 1884. The water-beetles of Japan, *Trans. ent. Soc. London*, 1884: 439-364.

(名古屋女子大)

○ノムラアカコメツキの採集例

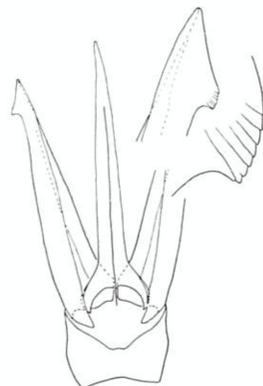
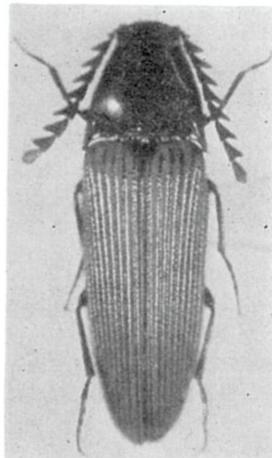
ノムラアカコメツキ *Ampedus (Parelater) nomurai* ÔHIRA は1968年, 1雌個体に基づいて奄美大島を模式産地として記載された種であるが、非常に稀な種の様で、その後の採集例は少ない。今回、小笠原氏から頂いた奄美大島のコメツキムシの中から本種の雄を見いだしたのでその全形を写真で紹介し、併せて未だ知られていない雄交尾器を図示しておく。

1雄, 奄美大島烏ヶ峰, 8. iv. 1977, 小笠原隆採集。

末尾ながら貴重な標本をご恵与下さった小笠原隆氏にお礼申し上げます。

(東京農大,

鈴木 互)



アヤムナビロタマムシ *Sambus quadricolor* E. SAUNDERS
の新産地(北限)とその生息状況について

大場 信義

アヤムナビロタマムシ *Sambus quadricolor* E. SAUNDERS, 1873 は体長 4~6 mm の小型種で、その特異な色彩斑紋で一見して他のタマムシから識別し得る。黒沢(1963, 1970)によれば、オオイタビ、イタバカヅラ、イチジクなどを食し、九州、屋久島、奄美大島、沖縄本島、八重山諸島、台湾に産するが、四国及び本州の産地は詳かではないと云う。

筆者は1977年7月に神奈川県横須賀市猿島の昆虫相調査を実施した際に、イヌビワの葉上より本種を多数採集すると共に生息状況を観察することが出来た。九州以北のはっきりした産地が知られていないのに、今回、九州よりはるかに距った東京湾内の小離島で発見されたのは興味深いと思われるので、同時に観察した生態的知見と共に併せて報告する。

種名の同定を受け、種々御教示頂いた国立科学博物館の黒沢良彦博士に深謝の意を表したい。

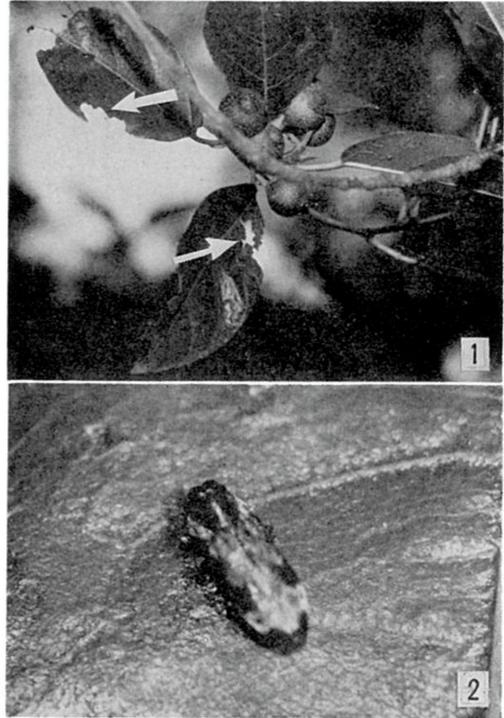
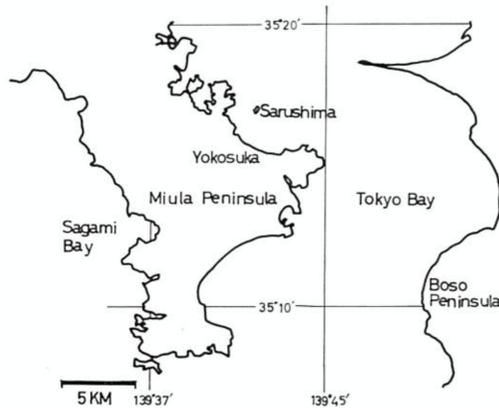
採集記録

19♂♂, 16♀♀, 神奈川県横須賀市公郷町猿島,
8. vii. 1977. 大場信義採集。

標本は2♂♂, 2♀♀を黒沢博士の手許に差上げ、
残余は横須賀市立博物館に保管されている。

生息地概況および生息状況

猿島は東経 139°40', 北緯 35°17' 付近に位置し、面積 51081.97 m²、東京湾口に近く、横須賀市より約 2 km 沖に在る小自然島である。島内にはタブ、トベラ、シイなどの温帯照葉樹が繁茂し、その他に、ハンノキ、ガクアジサイなども茂っている。アヤムナビロタマムシは島の西側のみに見出され、イヌビワの葉上に限って多数の個体が認められた。この地域は島内でも冬期間の西北風を強く受け易い地域で、生育環境が不適なために衰弱したイヌビワに集



中して発生したとも考えられる。この点に関しては今後調査を進めたく考えている。

本種はイヌビワの葉を写真1に於いて矢印で示した様に後食し、1株のイヌビワの葉上交尾中のものを含めて50~60頭もの多数を確認した。通常は写真2に示した様に、葉上に静止しているが、晴天時には近づくとかなり速かに移動したり、飛翔し去ることもある。採集した個体は雄19頭に対し♀は16頭で、雄がやや多い程度であった。雌雄は、雌の顔面が他の頭胸部と同じ銅赤色であるのに、雄の顔面は他と異なるオリブ様緑色である点で一見して区別出来る。

なお、猿島で本種を発見したのと同じ時期に他の三浦半島各地のイヌビワを調査したが、本種を確認することは出来なかった。

参考文献

- 黒沢良彦, 1963. 原色昆虫大図鑑(北隆館), 2(甲虫篇), 152頁, 第76図版, 第17図。
黒沢良彦, 1970. 日本産タマムシ科解説(9), 甲虫ニュース, (11), 3頁。

(神奈川県横須賀市立博物館)

熊本県市房山のコガネムシ

小林裕和

熊本県市房山に産する食葉性コガネムシの分布について、筆者の手許にある標本を基に記録することにした。採集時期が大部分7月中旬から8月にかけてのもので、多少とも採集された種類に片寄りが見られる。分布記録としてはまだ充分なものとは言えない。しかしながら、夏期に出現する種類については、ほぼ完全に近い記録になると思われる。愛好者諸氏の参考になれば幸いである。また、今後とも調査を続け、さらに完全なものとしていきたいと考えているので、資料をお持ちの方は是非お知らせいただきたい。なお、本編をまとめるにあたり貴重な標本を贈与下さり、調査にご協力いただいた熊本県湯山の西 和人君にお礼申し上げる。

1. *Ectinohoplia obducta* MOTSCHULSKY ヒメア
シナガコガネ
298頭, 26. vi. 1977, 西 和人採集。
2. *Serica tokeji* (NOMURA, 1959) トケジビロウ
ドコガネ
1♂, 21. vii. 1973, 小林裕和採集。
3. *Serica planifrons* NOMURA, 1972 ツヤケン
ビロウドコガネ
1♂, 21. vii. 1973, 小林裕和採集。
4. *Maladera castanea* (ARROW, 1973) アカビ
ロウドコガネ
2♂♂, 2♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集;
3♂♂, 2♀♀, vii. 1974, 西 和人採集。
5. *Gastroserica higonja* (LEWIS, 1895) ヒゴン
マビロウドコガネ
1♀, 24. vi. 1974, 西 和人採集。
6. *Paraserica gricea* (MOTSCHULSKY, 1866) ハ
イロビロウドコガネ
2♂♂, 3♀♀, 2. vii. 1974, 西 和人採集。
7. *Melolontha satsumaensis* NIJIMA et KINO-
SHITA, 1923 サツマコフキコガネ
13♂♂, 1♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集;
11♂♂, 4♀♀, 15-26. vii. 1974, 西 和人採集; 6♂
♂, 7♀♀, 21. vii.-6. viii. 1975, 西 和人採集。
8. *Lachnosterna morosa* (WATERHOUSE, 1875)
オオクロコガネ
24♂♂, 25♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採
集; 9♂♂, 3♀♀, 20-29. vii. 1974, 西 和人採集。
9. *Lachnosterna kiotoensis* (PRENSKE, 1894)
クロコガネ
1♂, 1♀, 27. vi. 西 和人採集。
10. *Lachnosterna picea* (WATERHOUSE, 1875) コ
クロコガネ
3♂♂, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 2♂♂,
25. vii. 1974, 西 和人採集; 1♀, 21. vii. 1975,
西 和人採集。
11. *Hexataenius protensis* FAIRMAIRE, 1891 ヒ
ゲナガクロコガネ
1♂, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 1♀, 25.
vii. 1974, 西 和人採集。
12. *Heptophylla picea* MOTSCHULSKY, 1857 ナガ
チャコガネ
3♂♂, 1♀, 27. vii. 1974, 西 和人採集。
13. *Adoretus tenuimaculatus* WATERHOUSE, 1895
コイチャコガネ
1♂, 20. vii. 1973, 小林裕和採集; 1♂, 25.
vii. 1974, 西 和人採集。
14. *Popillia japonica* NEWMANN, 1833 マメコガネ
1♂, 5♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集;
14頭, vii. 1974, 西 和人採集。
15. *Blitopertha orientalis* (WATERHOUSE, 1875)
セマダラコガネ
1♂, 1♀, 20. vii. 1973, 小林裕和採集; 4
♂♂, 1♀, 21-29. vii. 1974, 西 和人採集。
16. *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY, 1860 ヒ
メコガネ
68頭, 20-21. vii. 1973, 小林裕和採集; 56頭,
vii. 1974, 西 和人採集; 27頭, 20. vii-9. viii.
1975, 西 和人採集。
17. *Anomala albopilosa albopilosa* (HOPE, 1839)
9. アオドウガネ
9頭, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 13頭, 20
-29. vii. 1974, 西 和人採集; 37頭, 10. vii-
9. viii. 1975, 西 和人採集。
18. *Anomala geniculata* (MOTSCHULSKY, 1866)
ヒメサクラコガネ
1♀, 25. vii. 1974, 西 和人採集。
19. *Anomala lucens* BALLION, 1871 ツヤコガネ
54頭, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 48頭, vii.
1974, 西 和人採集; 35頭, vii. 1975, 西 和人
採集。
20. *Anomala daimiana* HAROLD, 1877 サクラコ
ガネ
9頭, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 24頭,
vii. 1974, 西 和人採集; 51頭, 18-30. vii.
1973, 西 和人採集。
21. *Anomala cuprea* (HOPE, 1839) ドウガネブ
イブイ
3♂♂, 2♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集;
13頭, 16-27. vii. 1974, 西 和人採集; 6頭,
26. vii-9. viii. 1975, 西 和人採集。
22. *Mimela splendens* (GYLLENHAL, 1817) コガ
ネムシ
6頭, 20-27. vii. 1974, 西 和人採集。
23. *Mimela diffcilis* (WATERHOUSE, 1875) ツ
ヤスジコガネ

- 1 ♂, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 1 ♀, 19. vii. 1974, 西 和人採集。
24. *Mimela takemurai* SAWADA, 1942 タケムラスジコガネ
1 ♂, 2 ♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 1 ♀, 25. vii. 1974, 西 和人採集。
25. *Rhombonyx* (?) *costata* (HOPE, 1839) オオスジコガネ
2 ♂♂, 1 ♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 2 ♂♂, 2 ♀♀, 15-26. vii. 1974, 西 和人採集; 1 ♂, 3. viii. 1975, 西 和人採集。
26. *Rhombonyx* (?) *testaceipes* MOTSCHULSKY, 1860 スジコガネ
4 ♂♂, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 4 ♂♂, 2 ♀♀, vii. 1974, 西 和人採集。
27. *Rhombonyx* (?) *holosericea japonica* (MACHATSCHKE, 1952) キンスジコガネ
1 ♀, 19. vii. 1974, 西 和人採集。
28. *Rhomborrhina* (*Pseudotorynorrhina*) *japonica* HOPE, 1841 カナブン
1 ♂, 1 ♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 2 ♂♂, 3 ♀♀, 27. vii-9. viii. 1975, 西 和人採集。
29. *Rhomborrhina* (s. str.) *unicolor* MOTSCHULSKY, 1861 アオカナブン
2 ♂♂, 1 ♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 2 ♂♂, 4 ♀♀, 13-21. vii. 1974, 西 和人採集。
30. *Rhomborrhina* (s. str.) *polita* WATERHOUSE, 1875 クロカナブン
3 ♂♂, 28. viii. 1977, 西 和人採集。
31. *Cetonia* (*Eucetonia*) *roelofsi* (HAROLD, 1880) アオハナムグリ
19 ♂♂, 16 ♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 1 ♂, 1 ♀, 25. vii. 1974, 西 和人採集。
32. *Cetonia* (*Eucetonia*) *pilifera* (MOTSCHULSKY, 1860) ハナムグリ
1 ♀, 25. vii. 1974, 西 和人採集。
33. *Oxycetonia jvcinda* (FALDERMANN, 1835) コアオハナムグリ
6頭, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 6頭, 17-31. vii. 1974, 西 和人採集。
34. *Protaetia orientalis submarmorata* (BURMEISTER, 1842) シロテンハナムグリ
2 ♂♂, 1 ♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 1 ♂, 2 ♀♀, 17-31. vii. 1974, 西 和人採集。
35. *Protaetia cataphracta* ARROW, 1913 ムラサキツヤハナムグリ
2 ♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集; 1 ♀, 25. vii. 1974, 西 和人採集。
36. *Anthrachophora rusticola* BURMEISTER, 1842 アカマダラコガネ
1 ♀, 25. vii. 1974, 西 和人採集。
37. *Gnorimus viridiopacus* (LEWIS, 1887) アオアシナガハナムグリ
1 ♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集。
38. *Paratrichius septemdecimpunctatus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN, 1864) ジュウシチホシハナムグリ
1 ♂, 26. vi. 1977, 西 和人採集。
39. *Trichius* (*Lasiotrichius*) *succinctus* (PALLAS, 1781) ヒメトラハナムグリ
1 ♂, 3 ♀♀, 21. vii. 1973, 小林裕和採集。
40. *Nipponovalgus angusticollis angusticollis* (WATERHOUSE, 1875) ヒラタハナムグリ
4頭, vi. 1974, 西 和人採集。
- 上記のうち、オオスジコガネ、スジコガネ、キンスジコガネの属名に関して、野村と筆者は1976年の昆虫学評論第29巻の中で、この3種を従来用いられてきた *Mimela* 属の中から、中肢の爪の形態や他の特徴などで、これらを狭義の意味での *Mimela* 属からは除外して考えた。その結果、この3種の属名に関しては、現在のところこれらに充てるべき適当な学名が不明確になっている。本編においては、これら3種の属名として *Rhombonyx* 属をあてたが、この扱いについては再考の余地があるように思われる。(東京都練馬区)
- イシガキトガリバサビカミキリ西表島に産す
イシガキトガリバサビカミキリ *Iproca ishigaki-ana* BREUNING et OHBAYASHI は、これまでの産地として石垣島のみであったが、筆者は、1977年5月2日、西表島美原の部落付近で枯れ枝に枯れずるが巻き付いたところの叩き網にて1♂を採集したので新分布地として報告しておく。
報告に際し、発表を勧められ、八重山採集時にお世話になった東京都の小倉直樹氏にお礼申し上げる。(和歌山市, 平松広吉)
- 対馬から新記録のハネカクシ追加(ハネカクシ科分布資料7)
対馬のハネカクシ類は白水・宮田(1976)によって編纂された「対馬産昆虫類目録」に1975年までに記録された23種が集録され、その後筆者等(1977: 甲虫ニュース, (36): 14)によって追加記録された15種を合わせると現在まで38種が知られていることになる。昨年、筆者の一人岸田泰則は蛾類採集のため対馬各地で灯火採集を行ったが、その折「仁位」にての採集の際飛来したハネカクシ類をも採集した。それらの中には下記の如く同島から未記録の5種が含まれていたため記録しておく。なお、採集個体はすべて1977年8月6日である。
1. *Carpelimus* (*Troginus*) *exiguus* (ERICHSON) 2頭
 2. *Oxytelus migrator* FAUVEL 1頭
 3. *Sunius deblicornis* (WOLLASTON) 1頭
 4. *Philonthus* (*Bisnius*) *sulcifrons* SHARP 1頭
 5. *Platydracus inornatus* (SHARP) クロガネハネカクシ 3頭
- (東京農大, 渡辺泰明; 宝仙学園, 岸田泰則)

オガサワラチビクワガタに関する生態覚書

渡辺泰明・田野口康彦

オガサワラチビクワガタ *Figulus boninensis* は1953年、中根・黒沢両博士によって、名前が示す通り小笠原諸島の父島を模式産地として記載された種で、後に同諸島の母島からも記録された。

本種は父島および母島においては普通に生息している種の様で、小笠原諸島へ調査・採集に渡島したほとんどの人達の採集品中に見られ、成虫の生息地や生息環境についてはかなり明らかになってきた。しかし、本種の幼期における生態や幼虫・蛹等の形態については未だ知られていない様である。幸にも、筆者等は国立科学博物館主宰による「伊豆・マリアナ孤諸島の自然史科学的総合研究」に参加し、昨年9月下旬から10月上旬にかけて小笠原諸島の父島および母島の昆虫相を調査する機会を得たが、その折に本種の幼虫・蛹および成虫のそれぞれを採集することができた。また、幼虫および蛹を持ち帰り室内で飼育した所、その内の一部を蛹化および羽化させることに成功したので、これらの経験に基づき本種の生態断片を紹介したい。なお、幼虫および蛹の形態に関しては別に報告する予定である。

本稿を草するにあたり、御教示を賜った黒沢良彦博士および幼虫・蛹の写真撮影を煩せた鈴木 互東京農大昆虫学研究室員に心から御礼申し上げる。

採集地と生息環境

幼虫・蛹・成虫ともに本年9月29日、小笠原諸島母島北村の朽ちかかったガジュマルの樹枝中より得られた。これらが生息していた樹枝は直径10~20 cm ほどの太さで、切り落されたまま巨大なガジュ

マルの樹下に放置されていたものと思われ、鋭で断ち割る程度から根掘りでも突き崩せる程度に朽ちたものまで存在していた。また、日中を通じてほとんど直射日光を受けない状況下に長く放置されていたためかなりの湿気を含んでいた。

幼虫・蛹・成虫の生息状況

幼虫：終令と思われる大型のもの、それに比しやや小型で1令期若いと思われる二つのタイプの個体が同一の朽木中に見られた。これらの幼虫は比較的狭い範囲に集中的に生息している様で、互の体が僅か5~10 cm ほど離れた間隔で生息しているのが観察された。持ち帰った終令幼虫の中で2個体が蛹化したが、老熟幼虫は孔道の奥に材部を食削してできた空間を利用して約10×20mmほどの蛹室を作り、腹面を上方向け蛹化した。

蛹：朽木中から3個体を採集、内2個体を固定し、1個体を生かしたまま持ち帰り飼育した結果、10月16日に羽化した。しかし、この個体の翅鞘は完全に伸びきらない畸型であった。蛹は蛹化直後は純白色であるが、日をおって漸次クリーム色となり、羽化真近かにはやや淡褐色を呈した。蛹の期間は蛹化した個体が未だ羽化していない現状なので正確には判明していない。しかし、9月29日に採集した新鮮な蛹が10月中旬に羽化したことから推察すると20~30日で、1ヶ月を越えることはない様に思われる。

成虫：朽木中で単独の個体が発見されることもあるが、多くの場合2頭がペアとなって生息し、1本の朽木中に数ペアが散在している。従って、1



第1図 オガサワラチビクワガタの蛹



第2図 飼育中のオガサワラチビクワガタの終令幼虫

ペアーでも生息していた朽木を発見すれば、その木を丹念に調査することによって他の多くの個体を採集することは比較的容易である。日中、朽木中から採集された個体は極めて動作が鈍く、地表に放置しても僅かな歩行のみみられる程度に過ぎないが、黒沢博士によれば、夜間には朽木中からはい出し、朽木表面に出現している個体も見出せるという。

筆者等は羽化直後の個体をも採集することが出来たが、この個体は頭部および胸部は赤褐色で、翅鞘は白色を呈していた。しかし、時間を経過した後には頭部および胸部は暗色化し、翅鞘は明るい赤褐色に変わった。

なお、幼虫・蛹・成虫を採集した際に、これらが生息していた同一朽木中より1卵塊を発見した。この卵塊は40卵ほどからなり、1卵は直径1mmたらずの白色球状を呈していた。しかし、これらの卵を孵化させることができなかったため、本種の卵塊かどうかの確認はできなかった。(東京農大)

○丹沢産の興味あるナガゴミムシ2種

ゴゼンナガゴミムシ *Pterostichus latistylis* TANAKA は、奥多摩御前山産の標本に基づいて1958年に田中和夫博士によって記載された小形のナガゴミムシで、主として水辺の石下に生息する。模式産地である御前山以外では、秩父山塊(白岩山)、赤石山塊(入笠山)、三河山塊(段戸山)、鈴鹿山塊(御在所山)などから知られていたが、富士箱根山地や丹沢山塊からは全く記録がなかった。しかし、筆者は丹沢山塊で本種を採集したので報告する。

2♂♂, 神奈川県丹沢物見峠, 29. viii. 1976, 田尾美野留採集。

2頭共、物見峠付近の比較的大きな沢の支流において、水辺の石下から見出したものである。

なお、同日同所で、砂の中に半ば埋れた石下より交尾中のワタナベナガゴミムシ *Pterostichus watanabei* TANAKA, 1♂1♀も採集した。丹沢からすでに記録されているが、本種も採集された個体数が非常に少ないので、併せて報告しておく。

(東京都大田区, 田尾美野留)

○マメダルマコガネの習性

マメダルマコガネ *Panelus parvulus* (WATERHOUSE) は、我国に産する糞虫類の中ではマグソコガネ亜科を除けば最小型種で、多くは、落葉やその下の土をベルレーゼ処理することによって得られる。

その習性に関しては、WATERHOUSE は長崎で牛糞中より得られたと記しているし、糞塊らしいものを転がしていたと云う記録もある。私の経験では、今まで獣糞から採集したことはなかったが、最近新見を得たので報告する。

1977年7月16日の午後、庄田達己氏と私は、静岡県天城峠から八丁池に向う山道でイノウエシコガネ *Mimela incuei* NOMURA を求めて夜間採集用の幕を設置したが、夕刻までに間があったので、八丁池に向って歩くことにした。暫く歩いたが、余り目星しいものも採れないので、山道にあった小さな黒い獣糞をほじくってみた。この獣糞は山道を歩いているとよく出会うもので、せいぜい直径4~6mm、長さ2~5cmくらい、黒く、時にはやや光沢のある糞で、よく石や切株の上に発見される。何の糞かはよく判らないが、糞の内容から推定すると、猿や兎のものではなく、明らかに食肉目の獣の糞である。糞虫に興味を持つ人でも、多くはこの糞に余り関心を示さない。せいぜいチビシデムシ類かハネカクシの微小種が来ているだけだからである。

ところが、この糞を崩してみると、黒く光る小さな、脚を縮めた甲虫が現れた。懐中電灯の下でルーペで見ると、正しくマメダルマコガネである。最初に庄田氏が発見し、私も1頭を見つけた。そこで、山道の同種の糞を全部調べてみたが、その結果次の様なことが判った。

マメダルマコガネは、糞の中に入っていることは余りなく、糞の表面か、下側の地面に接する所、つまり、糞の表面を嚙っていることが多い。私たちに全く同じ様に見える糞でも、マメダルマコガネのいる糞とない糞があり、いる糞には2~3頭も来ているものもある。獣糞ばかりではなく、岩の表面などにある鳥糞にも来集する。鳥糞はある程度厚みのあるものの方がよく、数頭を採集することが出来た。



以上の通りであるが、この様なことは、私には初めてのことであるので、一応報告することにした。

(東京都杉並区, 石田正明)

Pidonia 類の訪花性に関する研究*

第二報 大菩薩日川林道における調査結果

斎藤秀生・楠 嘉博・長山 仁

先に筆者の一人斎藤は、群馬県菅沼におけるハナカミキリ、特に *Pidonia* 類の訪花性について報告し、種により訪花植物の嗜好性が異なることを指摘した。その後窪木等 (1977) も日光仁加又沢における同属の訪花性に関する調査結果を報告している。筆者等はこの現象を更に明確に解析することを目的として下記の如く調査を行ったので報告し諸賢の参考に供したい。

調査時期：1977年7月4日。

調査地域：山梨県塩山市日川林道（大菩薩）。

調査地域の概要：当地は伐採が進み、所によってはカラマツの植林が行われているが、本来はクリ帯からブナ帯の植生地域と考えられ、1,500 m 付近ではブナとウラジロモミの混合林も認められる。また林道に沿って5月に開花するヤマブキ、コデマリ、カエデ類から8月に開花するノリウツギ、リョウブ、シソド等の植物にいたるまで、多種多様の訪花植物が存在している。

調査方法：林道を歩きながら訪花植物ごとに採集したカミキリ類を種分けし、それぞれのデータを記録した。

調査結果：第1表に示した通り、訪花植物から採集した *Pidonia* 類は合計16種484個体である。この中でヤグルマソウから採集された個体は63.4%にあたる306個体にもものぼるが、種類数は訪花 *Pidonia* 16種中の僅か4種 *debilis*, *insuturata*, *masakii*, *oyamae* のみであった。一方他の12種はごく近接した地域の花に訪花しているにもかかわらず、ヤグルマソウの花上では1個体も採集できなかった。このことは、*Pidonia* の種による訪花の嗜好性がある程度限定されていることをうかがわせる。前回の報告では、*Pidonia* の2種の訪花植物間の移行現象を報告したが、この場合では、訪花植物の開花時間の微妙な差によるもので他の訪花植物が存在しなかった結果に基づくものと考えられる。

それに対し今回の場合は他に訪花植物が存在しているにもかかわらずその種の嗜好に合致する訪花植物にのみ訪花し、あえて他の植物には訪花しなかったものと思われる。

また、*Pidonia* 類の中で極端な嗜好性

を持つ種が存在している場合、優占種の割り出しなどは非常に困難である。例えば今回の調査で林道からはづれたヤグルマソウの存在に気付かなかったならば、採集個体は別表中の「その他の訪花植物」の欄だけのものになり優占順位が異なった結果をまねいた事と思われる。

この事は訪花性に基づいて *Pidonia* 各種の生息状態あるいは発消長等の解析を行う場合には訪花植物に対しての十分な配慮が必要であることを示している。したがって、今後は優占種等を割り出す場合は、そのサンプルを得た訪花植物を明確にすべきであると考えられる。

なお、大菩薩におけるカミキリ類の訪花性に関する調査は継続中で、それらの結果は後日楠、長山等によって発表される予定である。末筆ながらこれを発表するに当たって終始懇篤な御指導を賜った東京農業大学昆虫学研究室の渡辺泰明助教授に心から御礼申し上げるとともに、本調査に積極的な御協力をいただいた、小野寛昭氏にも深く感謝する。

参考文献

前報に記した文献は全て省略した。

徳永雅明・笹川満広・秋山順 (1959), 果樹の訪花昆虫についての2,3の考察; 京都府立大学学術報告, 農学, 11: 59-70。

R. A. CROWSON (1975), True timber beetles (Cerambycidae), Food and feeding habits, The

第1表

種名	ヤグルマソウ			その他の花				合計			
	♂	♀	計	♂	♀	計	%	♂	♀	計	%
<i>debilis</i>	11	8	19	14	10	24	13.6	25	18	43	8.9
<i>puziloi</i>	0	0	0	10	5	15	8.5	10	5	15	
<i>testacea</i>	0	0	0	1	1	2		1	1	2	
<i>insuturata</i>	109	45	154	20	10	30	16.9	129	55	184	38.1
<i>masakii</i>	17	5	22	3	3	6		20	8	28	5.8
<i>simillima</i>	0	0	0	0	1	1		0	1	1	
<i>amentata</i>	0	0	0	3	6	9		3	6	9	
<i>oyamae</i>	88	23	111	15	5	20	11.3	103	28	131	27.1
<i>semiobscura</i>	0	0	0	11	9	20	11.3	11	9	20	
<i>matsushitai</i>	0	0	0	0	1	1		0	1	1	
<i>ohbayashii</i>	0	0	0	3	3	6		3	3	6	
<i>signifera</i>	0	0	0	12	5	17		12	5	17	
<i>mutata</i>	0	0	0	2	2	4		2	2	4	
<i>sylvicola</i>	0	0	0	0	1	1		0	1	1	
<i>maculithorax</i>	0	0	0	9	5	14		9	5	14	
<i>grallatrix</i>	0	0	0	3	4	7		3	4	7	
合計	225	81	306	106	71	177		331	152	483	

* 第一報 群馬県菅沼におけるハナカミキリ類の訪花性について (特に *Pidonia* について), 甲虫ニュース (1976), No. 36, pp. 11~13.

Life of Beetles; George Allen & Unwin Ltd. London, 93-94.

富樫一次(1976), 石川県におけるクリ園の昆虫相(第3報), クリの訪花昆虫; 石川農業短期大学報告, 6: 54-58.

窪木幹夫(1976), 日本産 *Pidonia* 属の覚え書(9), *Pidonia* の訪花性について; 甲虫ニュース, 36: 8-9.

斎藤秀生・倉田悦子・星野晴美(1976), 群馬県菅沼におけるハナカミキリ類の訪花性について(特に *Pidonia* について); 同誌, 36: 11-13.

窪木幹夫・柴田孝尚・田中直(1977), 群馬県・仁加又沢におけるヒメハナカミキリの生態調査—特にその垂直分布と訪花性について; New Entomol., 26(1・2): 15-24.

幾留秀一(1977), カミキリムシ類の訪花の観察記録; げんせい, 32: 11-13. (東京農大)

○モジャモジャツチイロゾウムシ本州での記録

モジャモジャツチイロゾウムシ *Pseudohylobius setosus* MORIMOTO, 1962 は九州の福智山, 熊渡山, 英彦山から採集された標本に基づき森本 桂博士によって記載されたもので, 体長6mm 足らずと小さいうえに, 体色, 体形ともに地味で図鑑にも載っていないためか, その後新産地発見の報告がない。したがって本州からは全く記録されていなかった。

筆者の手元には, 本州産の本種が3頭あるので, 本州初記録として報告する。

1頭, 奈良県春日山, 27. iv. 1976, 有本久之採集; 1♂, 和歌山県護摩ノ壇山, 27. vi. 1976, 森康真採集; 1♂, 和歌山県護摩ノ壇山, 22. v. 1977, 筆者採集。



末筆ながら, 貴重な標本を御恵与下さった有本久之, 森 康真両氏に感謝する。

(和歌山県有田郡, 的場 績)

○台湾オビハナノミ鳥取県で採集される

台湾オビハナノミ *Glipa pici* ERMISCH は台湾, 屋久島, 九州, 四国, 本州に分布するが, 台湾と屋久島を除けば採集例はわずかなものである。本州では紀伊半島の高野山と三重県平倉から各1頭ずつ採集されているだけであったが, 鳥取県産の標本があるのでここに報告しておく。

1♂, 鳥取県高鉢山, 1. viii. 1976, 山地 採集; 1♀, 同, 8. viii. 1976, 山地採集。1♂1♀, 7. viii. 1977, 山地採集。

なお, 九州においても最近の採集例は聞かないので手許の標本を併せ報告しておく。

1♀, 福岡県英彦山, 30. vii. 1970, 鎌苅哲二採集。

以上の標本は筆者が保管している。標本を恵与された山地治・鎌苅哲二両氏に厚くお礼申しあげる。

(大阪市住吉区, 畑山武一郎)

○ケヤキを食樹とする

ナガタマムシ属3種について

多摩川水系流域の各所から採取したケヤキの枯枝(太さ1~10cm)から, ムツボシタマムシ(*Chrysobothris succedanea* SAUNDERS) およびシロテンナガタマムシ(*Agrius sospes* LEWIS) とともに下記の3種のナガタマムシの脱出を観察したので報告する。

1. *Agrius tempestivus* LEWIS ウグイスナガタマムシ 20. iii. ~10. iv. 1977 採取の材から 19. iv. ~10. v. 1977 に脱出。

多摩川水系のほぼ全域(登戸, 日野, 高尾, 案下, 福生, 青梅, 氷川, 日原, 小菅, 落合, 秋川)のケヤキの枯枝から多数の個体(合計332頭)が脱出した。従来, ニレ, ケヤキ, ミズナラ, カエデなどの葉を後食することは知られていたが確実な食樹は不明であった。

2. *Agrius viridiobsculus* SAUNDERS アオグロナガタマムシ 20. iii. ~10. iv. 1977 採取の材から 20. iv. ~8. v. 1977 に脱出。

多摩川水系の中・上流域(登戸, 案下, 福生, 青梅, 氷川, 小菅, 落合)のケヤキの枯枝から合計33頭脱出した。従来, ニレやケヤキなどの葉を後食することは知られていたが食樹は不明であった。

3. *Agrius imitans* LEWIS ムネアカナガタマムシ 20. iii. ~10. iv. 1977 採取の材から 21. iv. ~30. iv. 1977 に脱出。

多摩川水系の案下, 秋川および丹波の3ヶ所のケヤキの枯枝から合計16頭, 脱出した。本種は別名エノキナガタマムシと呼ばれ, 食樹としてエノキのみが知られていたが, ケヤキをも食することを見出したので新食樹として追加したい。なお, 本種は従来, 西南日本に分布の中心を持つ種で, その東限は長野県下であった。

最後に, 種の同定と種々のご教示をいただいた黒沢良彦博士に深謝する。

(藤沢市, 山上 明; 杉並区, 大桃定洋)

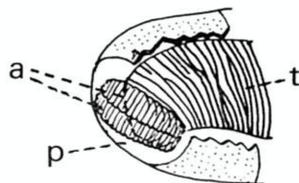
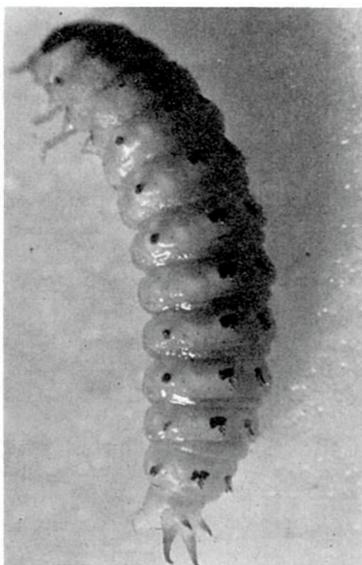
ケンキスイ幼虫にみられた気門の消失

林 長 閑

アカマダラケンキスイ *Lasiodactylus pictus* (MACLEAY) の終齢幼虫の中に第4腹節左側の気門が写真で示すように消失している1個体を見出した。鞘翅目の幼虫気門に現れた奇形についての記録はこれまでにないと考えられるので報告しておきたい。

奇形が発見された個体は横浜市内で柑橘の腐敗果実から本年6月に採集した16頭中の1頭である。念のため手許にある他の産地の標本12頭を調べたがこのような奇形はみられなかった。本種については調査した個体が少ないので断言できないが珍しいケースと思われる。本種を含めケンキスイムシ科 Nitidulidae の幼虫には胸部・腹部の気門が体表から目立って突出する種が多い。また本種の幼虫はからだが大いこと (体長約10 mm)、気門の突出部が暗褐色であることから気門の存在を一層明らかに示してくれる。

この科の幼虫気門の一般的な構造は図に示すように (図はアカマダラケンキスイ終齢幼虫の第3腹節気門)、突起部の先に2つの air-tubes (a) と、それ



をとりまく周気門輪 peritreme (p) があり、air-tubes から気管 trachea (t) が体内へと続いている。気門が突出部の先にあるため気管もその一部が外に突出している (気門気管)。今回の奇形個体は気門の位置がたいらで前記の着色された部分もないことから一見、全く気門が消失しているようにみえる。しかし顕微鏡下ではかすかに周気門輪と air-tubes の痕跡が認められる。解剖していないので体内に気管が残されているか否か明らかでないが、気管があっても気門の状態から呼吸作用の困難さが予想される。なお第7腹節左側の気門は色彩がうすく、きわめてわずかながら発育の悪さが認められる。興味深いことはこのような欠陥をもつ個体であるが生育状態がほぼ平均を示していることである。 (横浜市)

○ナカグロキバネクビナゴミシの記録

ナカグロキバネクビナゴミシ *Odacantha puziloi* SOLSKY は平地の湿地帯に生息する小型のゴミシであるが、最近になって日本から記録された種類で、1957年に埼玉県蔵市産の標本に基いて、土生昶申博士によって最初に報告された。その後、須賀邦輝氏により、東京都江戸川区行徳 (3. v. 1975, 10頭)、千葉県手賀沼 (27. vii. 1975, 2頭) などで採集され、栃木県渡良瀬遊水池からも記録があるが、いずれの地域においても数は少ないようである。

筆者は神奈川県で本種を採集したが、これは同県初記録であると思われるので報告する。

1頭、神奈川県横浜市港北区鶴見川, 11. iv. 1976, 田尾美野留採集。

採集した個体は堤防内の湿地の水面に落ちていたものである。

なお、新記録ではないが、1977年5~6月に渡良瀬遊水池で比較的多数の本種を得、若干の興味ある事実を知り得たので報告する。

5頭、栃木県渡良瀬遊水池, 1. v. 1977; 17頭, 同上, 21. v. 1977; 2頭, 同上, 11. vi. 1977, いずれも田野美野留採集。5月1日には同行の衆氏

も数頭を採集している。採集地は遊水池の一角の芦の繁みの中にある小流周辺の湿地で、同属のハネアカクビナゴミシ *Odacantha aegrota* BATES と共に見出された。これらは、5月1日に訪れた折には、本種は水際からかなり離れた湿地上にも見ることが出来、*aegrota* との個体数の差もそれ程大きくはなかった。しかし、5月21日には両種共に個体数を増してはいたが、本種は水際から数十センチ以内の場所に限られ、その他の場所では *aegrota* のみが見られた。さらに、6月11日には、*aegrota* は湿地上の各所で多数の個体を見ることが出来たのに、本種は水際にごく近い芦の間より2頭を得たに過ぎなかった。

以上の事実から推定すると、比較的暖地性である *aegrota* に比べ、より北方系である本種の方が越冬から覚めて出現する時期が早く、春先には優先種として湿地上を広く占有するが、*aegrota* の個体数が増すにつれて、水辺に近い限られた地域に追いつめられ、個体数も少なくなっていく様に思える。従来の本種の記録が少ないのも、上記の如く、出現時期の早いことと、*aegrota* の出現と共に急激に生息域が減少し個体数を減らすことに関連があるものと思われる。 (東京都大田区, 田尾美野留)

○ザウテルクビナガハンミョウの記録

ザウテルクビナガハンミョウ *Collyris* (*Neocollyris*) *sauteri* HORN, 1912 は台湾に産する3種の *Collyris* 属中, シロオビクビナガハンミョウに次いで比較的稀な種であるが, 筆者は東京農大の久保田正秀氏の御好意により高雄県宝山産の標本を検査することができたので報告する。

1頭, 台湾省高雄県宝山, 20. v. 1975

なお, 三輪(1936)は産地として大莆林(大林), 恒春を記録しているが, 同地方の記録は初めてと思われる。

末筆ながら, 貴重な標本を検査の機会を与えて下さった久保田正秀氏に深謝する。

(東京農大, 境野広行)

○日本産ハナノミ族の種別分布資料(1)

ハナノミ科甲虫については, 同好者が少なかったこともあって, その分布状況はいまだに把握できない種類が大半を占めている。そこで, より確かな分布状況を近い将来に得るために, これから私の知る限りの記録に加え大阪の畑山武一郎氏の協力を得て特定のを種類別にまとめていくことにしたい。ただ, 多くの文献を渉猟したわけではないので, 多少は分布記録の見落としがあることと思う。それらのご教示をお願いするとともに, 未記録地域の標本をお持ちの場合には私までご連絡下されば誠に幸いである。

オオシラホシハナノミ *Hoshihanomia pirika* Kôno

北海道: Yamakoshinai (河野, 1975) [原産地]; 本州: 福島県相馬郡飯桶村 (田添, 1973); 同南会津郡松枝岐 (矢野, 1975); 群馬県片品村大沢 (高桑, 1967); 長野県軽井沢 (平山, 1974); 同木曾駒ヶ岳 (日高, 1975: 1♀, 6. vii, 1964, 横山 創採集, 畑山氏蔵); 兵庫県鉢伏山 (辻, 1972; ミツオホシハナノミとして記録); 四国 (新記録): 高知県手箱山 (1頭, 27. vii. 1961, 横山 創採集, 畑山氏蔵); 同梶ヶ森 (1♀, 26. vii. 1971, 筆者蔵); 九州 (新記録): 大分県祖母山 (1♀, 21. vii. 1970, Y. 松永採集, 畑山氏蔵)。

以上のうち, 兵庫県鉢伏山の2頭以外はすべて1頭づつの採集例。

西日本の♀個体は上翅後方の白色紋が次種ミツオ

ホシハナノミの♀のそれに一見似た形となる場合が多いようなので注意が必要である。簡単には, 本種の上翅の紋は純白色, 尾節板は先端が鋭く尖るのに対し, 次種は上翅の紋がいくぶんとも黄色がかり, また尾節板は先端が切斷状なことで見分けられる。

ミツオホシハナノミ *Hoshihanomia mitsuoi* NAKANE et NOMURA

本州: 兵庫県六甲山 (野村, 1976); 岡山県岡山市金山 (1♀, 3. viii. 1970, N. 末永採集, 畑山氏蔵); 鳥取県高鉢山 (1♀, 1. viii. 1976, 山地 治採集, 畑山氏蔵); 広島県呉市野呂山 (小阪, 1967); 同宮島 (小阪, 1970); 九州: 若杉山 (中根・野村, 1950) [原産地]。

前種がブナ帯に分布し, 本種は西日本の低山にのみ分布するようであるが, 両種とも採集例が少ないためはっきりしない。宮島では7頭, 若杉山でもいくつつか (原記載に使用されたのは2頭) 得られているようである (ただし戦後は採集されていないという) が, その他では1頭づつの採集例。

♂♀で上翅の紋はかなり異なり, ♂は紋が退化して中部日本のオオシラホシハナノミに似てくる。♀は原色日本昆虫大図鑑Ⅱにも図示されているが, ♂はまだ図示されたことはないようなので注意。宮島と若杉山ではサクラから採集されたという。

(横浜市金沢区, 高桑正敏)

お詫び

昨年暮に発行する予定のところ, 世話人間の連絡不十分や多忙が重なり, 一ヶ月も発行が遅延し, 皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。次号は予定通り3月末に発行致します。皆様の御投稿をお待ちしております。なお, 今号で40号を迎え, 年度末で区切りがよいので, 一応の区切りをつけて, 今までの総目次を作ることを計画しております。

(編集部)

甲虫談話会

会費(1カ年)1500円, 次号は3月下旬発行予定, 投稿〆切は2月20日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話(364)2311, 振替 東京 60664

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本160円)

なお, 無頭針0号もできました。その他, 採集・標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話(03)409-6401(ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,400, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下¥1,200, 4個以上¥850(以下同様), 第2地帯¥1,400, ¥950, 第3地帯¥1,600, ¥1,050. 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥140)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25

電話(03)811-4547, 振替 6-113479